

5 本時のねらい

かける数が1増えると答えが7増えることを活用して、7の段の九九を構成することができる。(考・知)

《本時働かせたい数学的な見方・考え方》かける数が1増えると答えは7増えること

6 本時の展開 (3/全11)

	学 習 活 動	個の見届け・支援・研究との関わり
つ か む	<p>1. 問題の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> 本単元第1時に提示した九九表を準備する。 <p>問7の段の九九をつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> アレイ図、絵カード(1箱7本入りのアイス)を使って作ってみよう。 6の段は、かける数が1増えると6増えたから、7の段はかける数が1増えると7増えるんじゃないかな。 <p>2. 課題をつかむ</p> <p>課題 かける数が1増えると、答えがいくつ増えるか考えながら作ろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> P132の九九表を拡大し黒板に提示する。前時まで6の段まで記入しているので、本時は続きの7の段を書き加すことを確認する。 子どもたちの発言をうけて、6の段までの九九を構成するときに見つけた性質(“ひみつ”と表現)提示する。
考 え る	<p>3. 一人学び</p> <p>〈絵カードを使う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 7×2は、アイスクリームの数が7つ増える。$7 + 7 = 14$ <p>〈累加の式を使う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 7×3は、7が3つ分、7を3回たせばいいから、$7 + 7 + 7 = 21$ <p>〈アレイ図を使う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 7×4は、7×3から1列右にずらして●が7個分増える。$21 + 7 = 28$ <p>〈アレイ図と交換法則を使う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 7×5は、5×7と見ることもできる。$7 \times 5 = 5 \times 7 = 35$ 	<ul style="list-style-type: none"> アレイ図、個人用のホワイトボードは常時準備してあり、必要に応じて自己選択して使用することになっている。 個人の考え方や表現の仕方を尊重しながら、本時働かせたい見方や考え方でできるよう助言をする。 <p>実態・学習状況の見届け</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人学びで自分の考えがまとまったら仲間と交流してもよいこととする。まずは、ペアでノートを見せながら言葉で説明しあうようにする。
深 め る	<p>4. 仲間学び</p> <p>◎友だちは、どんなふうに7の段に九九をつくったか交流しよう。7の段の九九をつくるときに大事にした考え方は何かみつつけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> どんなやり方でも、できた7の段の九九の答えは、かける数が1増えると答えが7増えている。 <p>◎みんなて7の段の九九表を完成させましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなて7の段のかけざんの式と答えを言い合いながら表を完成させる。答えが7ずつ増えていることを確認しながら記入する。 	<p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> 「同じ」「違う」「似ている」「よくわからない」「とっちがいいか」という観点を示し、仲間の意見を考えながら聞き、自分の立場を明らかにして意見交流ができるようにする。 本時働かせたい見方や考え方(キーワード)に気付くような深めの発問をする。 子どもたちの考えを本時働かせたい見方や考え方(九九のひみつ)で分類して提示したり、算数用語をカードにして使用したりしながら板書を整理し、考えを焦点化し結論へつなげられるようにする。
ま と め る	<p>5. まとめる</p> <p>◎7の段の九九は、かける数が1増えると、答えは7増える。</p> <p>6. 確かめる</p> <p>問題 7×10、7×11の答えはいくつになるかな?</p> <ul style="list-style-type: none"> かけられる数が1増えると答えは7増えるから、$7 \times 10 = 70$、$7 \times 11 = 77$となる。※できたら、仲間と答えを確認する。 <p>7. ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> わかったこと、できたこと、楽しかったことを交流する。 	<p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> 終末の問題では、本時の学習を活用し発展的な練習問題に取り組むように設定した。仲間と説明し合い、答えを確認する。 <p>定着の見届け</p> <p>【評価基準】 全体の数量を基準とする1つ分の大きさのいくつ分と捉えて表現することができる。(考・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学びをふり返り、自分や仲間の学びを認め合う時間を設定する。担任として、本時大切にしたい考え方や見方ができた姿、仲間の意見に関わって話し合いをしていた様子を紹介し、自信と算数の学習に対する意欲につなげる。話し合いで考えが深まったり広がったりした言葉があれば、『授業のたからばこ』に位置付ける。